

# 公立高校入試 学校独自検査

(問題文の表記は、原本のままです)

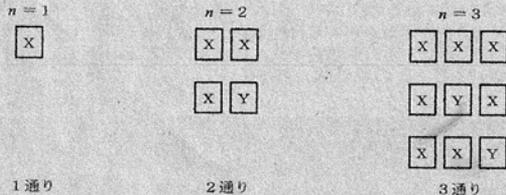
## 〈筆答検査A〉

(1) 同じ大きさの、Xの文字が書かれたカードとYの文字が書かれたカードをたくさん用意した。これらのカードを、次のルールに従って、左から横一列にn枚並べるとき、次の(1)~(3)の問いに答えなさい。ただし、nは正の整数とする。

ルール

- 左端のカードは、Xのカードである。
- Yのカードの隣に、Yのカードをおくことはできない。

例えば、下の図のように、n = 1, 2, 3のときは、ルールに従った並べ方が、それぞれ1通り、2通り、3通りある。



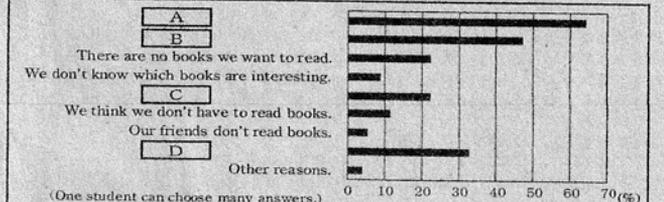
- (1) 次の①、②の問いに答えなさい。
- n = 4のとき、並べ方は何通りあるか。答えなさい。
  - n = 6のとき、並べ方は何通りあるか。答えなさい。
- (2) カードが20枚のときの並べ方のうち、右端のカードがYのカードである並べ方の総数は、nの値がいくつときの並べ方の総数と等しくなるか。理由をつけて、求めなさい。
- (3) n=17のとき、左から9枚目のカードがYのカードで、このカードからみて、カードの文字の配列が左右対称となるカードの並べ方は何通りあるか。理由をつけて、求めなさい。

(2) 次の英文を読んで、あとの(1)~(3)の問いに答えなさい。

Do you like reading books? I like books very much, and I visit the city library near my house every weekend. Many people come to the library, and they usually borrow books. Some people stay there for many hours, find books which are new to them and enjoy reading them.

I am a member of the library staff at my high school. When I was reading a newspaper in the library at school, I saw some data in the newspaper. The data showed that elementary school students read more than junior high school students or high school students. The data also showed that half of high school students read no books in a month. I wanted more students to visit our school library. I wanted to know what I could do to make our school library more popular.

When I went to the city library and read a booklet to find the answer, I found a graph in the booklet. From the graph, I learned the ideas of high school students who didn't read books.



In the graph, we can see the answers to the question "Why do you read no books now?" More than half of the students say they don't read books because they don't have time to read books. The percentage of students who say they are interested in other activities is higher than the percentage of students who say they don't have the habit of reading books. About 20% of the students say that they think it is troublesome to read books. Almost the same number of students say that there are no books they want to read. I also learned another thing from this booklet. Many high school students like reading books and they think it is important to read books in the future. If the library staff give the students a chance to come to the library and open many kinds of books, the students will become interested in reading books.

During summer vacation, my friend and I went to the city library to join an interesting event for students. Each team brought their favorite book and talked about the story to the other teams. Before the performance, the speakers had to decide what to say to make other students interested in their stories. After each performance, everyone talked about the book together for three minutes. After all the performances, all the members chose their favorite books. They wrote message cards about their favorite books and gave the cards to the teams. We enjoyed this event together with other students. I thought, "If I do this in our school, students can share their feelings with each other and they will want to read more books."

There are good points in reading books. We use the Internet at home or at school, and we can learn a lot of things from the Internet. But we sometimes don't know how to get the information we want. When we go to the library, librarians give us advice. We can learn more from the library than from the Internet. I want to make our school library attractive as a member of the library staff. I hope that more students will come to our school library and enjoy reading books.

(グラフは、平成28年度文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」より作成)

(注) library staff 図書委員 data データ booklet 小冊子 answer 答え  
graph グラフ percentage 割合 activity 活動 habit of ~ing ~する習慣  
troublesome 面倒な performance 発表 speaker 話し手 feelings 感情

上、言葉にできないはずはない。現にそうやって自分の身体で起きている出来事を、思考にしろ感情にしろ、赤ちゃんのときから言葉を増やし、修辭や論理を学んで、言葉にできるようになったわけですからね。赤ちゃんにできたことが、大人にできないはずはない。

だから、レヴィナスのフランス語をなんとかして日本語に置き換える。でも、自分の身体にじっくりくるような日本語にならないと「気持ちが悪い」。手がかりはそこだけなんです。「気持ちが悪い」のはたぶん訳文が間違っているからです。でも、それなら「気持ちが悪い」文を書けばいいのかもしれない、そういうわけでもない。レヴィナスのように深遠な思想家の場合は、僕程度の理解力や経験知ではとても及ばないようなレベルの教習を語っているわけで、そんなに簡単に「わかりやすい日本語」に落とし込めるはずがない。

でも、不思議なもので、そのうちに何かのはずみで「意味はわからないが、気持ちが悪い」という文章ができることがある。「意味がわからない」のは知性的にはまだ飲み込めていないからです。でも、「気持ちが悪い」というのは、その思念なり感覚なりに、僕が身体的にはすでに同期していることを示しています。「ほら、なんて言ったらいいのかな。ほら、あれ。ああ、喉元まで出かかっているんだけど……」ということってあるでしょう。身体的には抱持されているのだけれど、まだ言語化されていない。

自分の知性の水準やスケールを超える知見を自分の言葉で表現しようと望むなら、どうしても、この「もどかしさ」の領域を通過しなければならない。でも、それは発生的にはごくごく自然なことなんです。幼児が言葉を獲得してゆくプロセスは、まさにそのような「もどかしさ」の連続だったはずですから。

その逆に、意味はなんとなくわかるけれど、さっぱり身体的に同期しないという場合もあります。まず言葉がある。でも、イメージがない。言葉は知っているけれども、何を意味するかがわからない。「言葉余って意足らず」です。

「怒髪天を衝く」とか、「肝胆相照らす」とか、「腑に落ちる」とか、「心頭滅却すれば火もまた涼し」とか、こういうのはまず言葉があって、身体実感はない。ふつうの中学生や高校生が漢文の時間に、「怒髪天を衝く」という言葉を見ても、怒りのあまり髪の毛が逆立って天を衝くなんて、身体実感としてはわからない。

こういう場合はまず言葉がある。「肝胆相照らす」という言葉がまずある。お互いの気持ちがよくわかるという意味だと辞書には書いてある。でも、僕たちは「肝」や「胆」がどこにあるか場所さえ特定できない。それが「相照らす」。内臓をどうやって照らし合うのか。ずとんと理解できたときには「腑に落ちる」という言葉を使う。でも、「腑」って何なのか。そこに何が落ちるのか。身体実感がない。「心頭滅却すれば火もまた涼し」というけれど、火に焼かれて死んだことがないので、わかるはずがない。

言葉がまずある。それを習得する。イメージを伴わない用法、身体的な実感に裏打ちされていない語をまず覚える。でも、それは気持ちが悪いわけですよ。容れ物だけがあって、中身がないんですから。だから、そういう身体的実感を伴わない語はだいたいいつも脳内の「ダストトップ」に置かれている。気になるから。そして、無意識のうちにそれに合う「中身」を探している。何か未知のものを見るたびに、これはもしかして「自分が言葉だけ知っていて、実物を知らないあれ」ではないかしらと考える。必ずそういうことをしていると思うんです。もちろん無意識に。でも、「これが『あれ』なのかな？」という問いは忘れられることはない。そして、ある日、ものすごく怒ったとき、頭皮がムズムズして、毛穴が少し広がっているような感じがした。そのときに、「あ、これが『怒髪天を衝く』か」と思う。友だちと話していて、わずかな言葉で、うずと気持ちが通じて、胸が気分よく広がったような感じがしたときに、「あ、『肝胆相照らす』とはこのことか」と思う。そういうふうに、まず用法が先行すると、それを埋める身体実感を探しながら生きてゆくことになる。シンデレラ姫のガラスの靴のように、容れ物がまずあって、それにびたりと収まるコンテンツを探している。

「人こそ見えぬ秋は来にけり」とか「昔はものをおもはざりけり」とか、中学生のときに暗記させられますけれど、中学生にそれを裏づけるようなしみじみとした実感があるはずがない。「あはれわたる瀬々の網代木」も「衣はすてふ天の香具山」も実物を見たことがない。でも、言葉だけは知っている。見たことのない景色、経験したことのない感動は、まさにその欠落感ゆえに、僕たちの言語的成熟を促します。この「容れ物」に見合う「中身」を自分は獲得しなければならないという成熟に向かう圧のようなものを僕たちはつねに感じることになります。

言語における創造性というのは、この緊張関係のことではないかと僕は思います。創造性、創造性というのは、なんらかの個人的能力のことではなく、この緊張状態のことを言うのではないかと。

「創造的な言語活動」というと、自分のなかから次々と新しいアイデアが浮かんで来て、それが作品になってゆく生成のプロセスを思い浮かべますけれど、実際に起きていることはもっと複雑なはずじゃないでしょうか。

言葉だけがあって、身体実感が伴わない。その逆に、身体実感はあるが、言葉にならない。この絶えざる不均衡状態から言葉は生まれてくる。むしろ、そこからしか言葉は生まれてこない。だから、創造的な言語活動とは、この「絶えざる不均衡」を高いレベルに維持することではないか、僕はそんなふうに思うのです。

(内田 樹「現場の文体論」による)

(注) ハイデガー＝ドイツの哲学者。  
エマニュエル・レヴィナス＝フランスの哲学者。  
同期する＝一致する。  
把持＝しっかりと手に持つこと。  
ダストトップ＝パソコンを起動した時に作業の基本となる画面。  
コンテンツ＝中身、内容。  
「人こそ見えぬ秋は来にけり」「昔はものをおもはざりけり」「あはれわたる瀬々の網代木」「衣はすてふ天の香具山」＝それぞれ、「百人一首」に収められた和歌の一部分。  
創造性＝先行する条件からは予測や説明のできない、新しい特性を生み出すような性質。

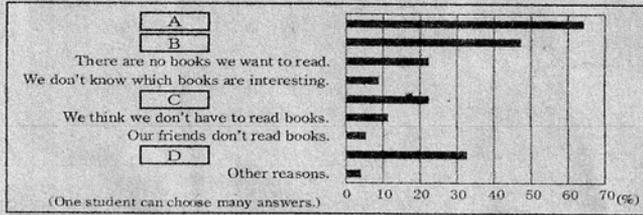
- 下線部分①の「脳の再組織化」とは、どのようなことか。50字以内で書きなさい。
- 下線部分②の「容れ物がまずあって、それにびたりと収まるコンテンツを探している」とは、どのようなことか。80字以内で書きなさい。
- 下線部分③について、筆者は、言葉が生まれてくる途上に、「身体実感はあるが、言葉にならない」という不均衡状態があると述べている。このことについて、あなたはどのように考えるか。身近な例をあげて、150字以内で書きなさい。

## 筆答検査A 解答例

- (1) ① 5 (通り)      ② 13 (通り)

know what I could do to make our school library more popular.

When I went to the city library and read a booklet to find the answer, I found a graph in the booklet. From the graph, I learned the ideas of high school students who didn't read books.



In the graph, we can see the answers to the question "Why do you read no books now?" More than half of the students say they don't read books because they don't have time to read books. The percentage of students who say they are interested in other activities is higher than the percentage of students who say they don't have the habit of reading books. About 20% of the students say that they think it is troublesome to read books. Almost the same number of students say that there are no books they want to read. I also learned another thing from this booklet. Many high school students like reading books and they think it is important to read books in the future. If the library staff give the students a chance to come to the library and open many kinds of books, the students will become interested in reading books.

During summer vacation, my friend and I went to the city library to join an interesting event for students. Each team brought their favorite book and talked about the story to the other teams. Before the performance, the speakers had to decide what to say to make other students interested in their stories. After each performance, everyone talked about the book together for three minutes. After all the performances, all the members chose their favorite books. They wrote message cards about their favorite books and gave the cards to the teams. We enjoyed this event together with other students. I thought, "If I do this in our school, students can share their feelings with each other and they will want to read more books."

There are good points in reading books. We use the Internet at home or at school, and we can learn a lot of things from the Internet. But we sometimes don't know how to get the information we want. When we go to the library, librarians give us advice. We can learn more from the library than from the Internet. I want to make our school library attractive as a member of the library staff. I hope that more students will come to our school library and enjoy reading books.

(グラフは、平成28年度文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」より作成)

- (注) library staff 図書委員 data データ booklet 小冊子 answer 答え  
graph グラフ percentage 割合 activity 活動 habit of ~ing ~する習慣  
troublesome 面倒な performance 発表 speaker 話し手 feelings 感情  
librarian 司書 attractive 魅力的な

- (1) グラフ中のA~Dの  の中には英文が入る。A~Dの  の中に入る最も適当なものを、次のア~エから、それぞれ一つずつ選び、その符号を書きなさい。  
ア We are interested in other activities.  
イ We don't have time to read books.  
ウ We don't have the habit of reading books.  
エ We think it is troublesome to read books.
- (2) 筆者は、夏休みに、市の図書館でどのようなイベントに参加したか。また、そのイベントに参加して考えたことは何か。100字以内の日本語で書きなさい。
- (3) "We can learn more from the library than from the Internet." とあるが、このことについて、あなたはどのように考えるか。理由を含め、10行以内の英文で書きなさい。

### 〈筆答検査B〉

(問) 次の文章を読んで、あとの(1)~(3)の問いに答えなさい。

僕は二十代のときにハイデガーの『存在と時間』という難解で知られる哲学書を読んだことがあります。最初は何が書いてあるのか、まったくわからなかった。でも、これを読まないで、そのときの研究が先に進まないで、三週間ほどかかって必死に読み通しました。不思議なもので、スタート時点ではまったく意味がわからなかったのに、三週間読んでみると、何となくわかるようになる。それは嘘えて言うところ、見ず知らずの人たちが行き来して、理解できない外国語をしゃべっている芝居を三週間毎日見せられたような感じです。それくらい長くつきあうと、なんとなく感情移入できる登場人物が出てくる。ひいきの役者もできるし、「聴いたことある」という伴奏音楽や、なじみの舞台装置も識別できるようになる。そうすると、それが「どういう物語」なのか、舞台の上では何が問題になっているのか、何となくわかってくる。同一の情報がかえりかえり入力されると、人間の脳はそれを理解できるように再組織化される。ほんとうにそうなんです。

その場合に経験的に確かなのは、身体を媒介させると効率的だということです。声に出して読む。あるいは「写経」するようにノートをとる。身体を使うと、①「脳の再組織化」がはっきりと加速される。身体を媒介させればさせるほど、理解は進む。

僕はエマニュエル・レヴィナスという人の本をいくつも訳していますが、これもまた読んでまったく意味がわからなかったから訳すことにしたんです。変な話ですけど、そういうことってあるんです。いざ始めてみただけで、何頁訳しても、自分で訳した日本語の意味がさっぱりわからない。それでも毎日訳す。ほとんど写経です。でも、そういう禁欲的な作業を何週間も続けていると、ある日気づくと「呼吸が合ってくる」んです。センテンスの終わりが予感される。もう、そろそろフィニッシュだな、と思ったときにぴたりとピリオドがくるということが起きる。あるいは、ある名詞が出たときに、この名詞にレヴィナス先生が愛好する形容詞は「あれ」かなと思うと、その通りの形容詞がくる。そうすると、なんかうれしくなるわけですね。「呼吸が合った」。意味がわかったわけじゃないんです。身体のリズムが合っただけ。でも、そこからしか始まらないんです。未知の思想や感覚に接近する方法は結局それしかないと思う。身体が同期する。身体が同期すると、自分の身体の内側に自分の知らなかった感覚が生じます。前代未聞の感覚だけれど、それが「僕の身体で起きている出来事」である以

か」と思う。友だちと話していて、わずかな言葉で、すうっと気持ちを通じて、胸が気分よく広がったような感じがしたときに、「あ、『肝胆相照らす』とはこのことか」と思う。そういうふうに、まず用法が先行すると、それを埋める身体実感を探しながら生きてゆくことになる。シンデレラ姫のガラスの靴のように、②「容れ物がまずあって、それにびたりと収まるコンテンツを探している」。

「人こそ見えぬ秋は来にけり」とか「昔はものをおもはざりけり」とか、中学生のときに暗記させられますけれど、中学生にそれを裏づけるようなしみじみとした実感があるはずがない。「あはれわたる瀬々の網代木」も「衣ほすてふ天の香具山」も実物を見たことがない。でも、言葉だけは知っている。見たことのない景色、経験したことのない感動は、まさにその欠落感ゆえに、僕たちの言語的成熟を促します。この「容れ物」に見合う「中身」を自分は獲得しなければならぬという成熟に向かう庄のようなものを僕たちはつねに感じるようになります。

言語における創造性というのは、この緊張関係のことではないかと僕は思います。創造性、創造性というのは、なんらかの個人的能力のことではなく、この緊張状態のことを言うのではないかと。

「創造的な言語活動」というと、自分のなかから次々と新しいアイデアが浮かんで来て、それが作品になってゆく生成のプロセスを思い浮かべますけれど、実際に起きていることはもっと複雑なんじゃないでしょうか。

言葉だけがあって、身体実感が伴わない。その逆に、③「身体実感はあるが、言葉にならない」。この絶えざる不均衡状態から言葉は生まれてくる。むしろ、そこからしか言葉は生まれてこない。だから、創造的な言語活動とは、この「絶えざる不均衡」を高いレベルに維持することではないかと、僕はそんなふうに思うのです。

(内田 樹「街場の文体論」による)

- (注) ハイデガー→ドイツの哲学者。  
エマニュエル・レヴィナス→フランスの哲学者。  
同期する→一致する。  
把握→しっかりと手に持つこと。  
デスクトップ→パソコンを起動した時に作業の基本となる画面。  
コンテンツ→中身。内容。  
「人こそ見えぬ秋は来にけり」「昔はものをおもはざりけり」「あはれわたる瀬々の網代木」「衣ほすてふ天の香具山」→それぞれ、「百人一首」に収められた和歌の一部分。  
創造性→先行する条件からは予測や説明のできない、新しい特性を生み出すような性質。

- (1) 下線部分①の「脳の再組織化」とは、どのようなことか。50字以内で書きなさい。
- (2) 下線部分②の「容れ物がまずあって、それにびたりと収まるコンテンツを探している」とは、どのようなことか。80字以内で書きなさい。
- (3) 下線部分③について、筆者は、言葉が生まれてくる途上に、「身体実感はあるが、言葉にならない」という不均衡状態があると述べている。このことについて、あなたはどのように考えるか。身近な例をあげて、150字以内で書きなさい。

### 筆答検査A解答例

- (1) ① 5 (通り)      ② 13 (通り)
- (2) 【説明】  
左から20枚目にある、右端のカードがYのカードであるので、左から19枚目のカードの文字はXである。これより、左から18枚目のカードの文字は、X、Yのどちらでもよいから、左端から18枚目までの18枚のカードは、ルールに従って並べることができる。よって、 $n = 18$ である。 ( $n = 18$ )
- (3) 【説明】  
17枚のカードを、左から9枚目のカードがYのカードで、このカードからみてカードの文字の配列が左右対称となるように並べ、下の図のように、並んでいる17枚のカードを左から順に1, 2, ..., 16, 17とすると、1のカードはXのカードだから、17のカードもXのカードであり、9のカードはYのカードなので、8, 10のカードはXのカードである。
- |   |   |     |   |   |   |    |    |     |    |    |
|---|---|-----|---|---|---|----|----|-----|----|----|
| 1 | 2 | ... | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | ... | 16 | 17 |
| X |   |     |   | X | Y | X  |    |     |    | X  |
- 8のカードがXのカードなので、7のカードは、X、Yのカードのどちらでもよいから、1から7までの7枚のカードは、ルールに従って並べられている。また、上の図の、1から7までのカードの並べ方を一つ決め、その並べ方と逆順に17から11までのカードを並べると、文字の配列が左右対称となるように並べることができるので、1から7までの7枚のカードの並べ方が何通りあるかを考えればよい。 $n = 7$ のときの並べ方を数えると21通りとなる。よって、並べ方は、21通りある。 21 (通り)

- (2) (1) A イ B ア C エ D ウ
- (2) 各チームが発した本について全員で話した後、それぞれが好きな本を選び、その本を紹介したチームにカードを渡すイベントに参加した。学校で行えば、生徒が共感し合い、もっと本を読みたくなるだろうと考えた。
- (3) I think we can learn more from the library than from the Internet. When we use the Internet to find information we want, we have to write the word on the computer. If we don't know the word, we can't look for it. But, when we walk in the library, we can see many kinds of books and open them. By reading them, we can find the information we want, and we can also learn different things which are new to us.

### 筆答検査B解答例

- (1) 難解なことであっても、脳に同一の情報としてくりかえし入力されると、意味が理解できるようになること。
- (2) 言葉として習得したが、身体的実感の裏打ちがない語があると、無意識のうちに、何か未知のものを見るたびに、その語の意味と一致する身体的実感を探しているということ。
- (3) 私は剣道部に所属していた。2年生になり、剣道で大切な心構えを1年生に教える際、どう伝えればよいのか考えたが、なかなか表現できなかった。その時、「礼に始まり礼に終わる」という言葉を読み、自分も納得したし、言いたいことを伝えることができた。言葉にならない段階を経て得た言葉は、深く心に刻まれると思う。